

受付番号	
事業区分	経営者研修会事業
実施機関名 社団法人 大阪能率協会	「URL: http://mic.e-osaka.ne.jp/oma/ (実施都市名: 大阪府大阪市)
テーマ名称	摂津水都信用金庫コース 参画型 経営革新 実践研修
主催	主催: 社団法人 大阪能率協会、摂津水都信用金庫 後援:
原稿作成年月日	平成21年12月9日
作成者名 (公開したい場合のみ記載)	[資格] [氏名] [E-mail] ・ ITC/ITCI 中田 和男 nakata@e-scan.co.jp
事業を支援した専門家名 (公開したい場合のみ記載)	[資格] [氏名] [E-mail] ・ ITC/ITCI 丸山 幹雄 k-mnc@mtd.biglobe.ne.jp ・ 中小企業診断士 久田 章 hisada@nike.eonet.ne.jp

【キーワード】 *検索のためのキーワード

経営戦略、経営革新、実践研修、経営戦略企画書、IT経営企画書、重要成功要因(CSF)、IT化経営、事業ドメイン、戦略マップ、経営課題、IT成熟度、アクションプラン、IT経営応援隊、経済産業省、社団法人日本情報システム・ユーザ特定非営利活動法人ITコーディネータ協会、摂津水都信用金庫、社団法人大阪能率協会

【テーマを取り上げた狙いと目的・目標】 *簡潔に分かりやすく、できるだけ定量的に。

昨年より続く厳しい経済情勢の下、企業経営者は、経営戦略の見直しを迫られている。そこで、経営革新に意欲的な中堅・中小企業を対象に、実践的な経営革新研修を実施し、経営革新のポイントを体得させるとともに、この実践研修を基礎として、経営者自身が経営戦略の見直しを行い、将来のあるべき姿を明確にして、実行可能な経営戦略企画書、IT経営企画書の策定を行うのを支援する。当協会では、本研修をスタートポイントとして、各種フォローアップにより、IT化経営の実現までを支援する。

【研修会事業の概要】

- ◇第1回目:10月9日(金) 18:00~19:00 事前説明会 摂津水都信用金庫本店
- ◇第2回目:10月17日(土) 10:00~17:00 ケース研修、グループ討議 経営戦略企画策定フェーズ
参加企業 10社 製造業2社、建設業1社、流通/販売業7社
社長の想い確認、経営環境分析、事業ドメイン分析、重要成功要因抽出
*研修終了後に懇親会を開催、受講者、摂津水都信用金庫関係者、講師、による異業種交流、コミュニケーションの円滑化が図れた。
- ◇第3回目:10月18日(日) 10:00~17:00 ケース研修、グループ討議 IT経営企画策定フェーズ
BSCによる戦略マップ作成、IT経営企画、IT経営成熟度、IT経営企画とアクションプラン立案
- ◇第4回目:10月19日~11月27日の任意日 各社2~3回訪問して支援。
インストラクターが受講企業を個別訪問し、経営者が自ら行う経営戦略企画書、IT経営企画書の策定を支援。
- ◇第5回目:11月28日(土) 10:00~17:00 受講企業の経営者による自社の「経営戦略企画書」、
「IT経営企画書」の発表会開催:参加10社。
発表は各企業の役員会での社長による経営革新計画の発表という想定で、摂津水都信用金庫 赤尾常務理事及び当協会丸山常任理事が監査役を務め、他の参加企業は、社外重役、講師は顧問の役割で進行し、発表ごとに監査役から有益な助言を頂いた他、活発な質疑応答が行われた。
尚、摂津水都信用金庫からは強力な支援を頂き、参加企業を推薦頂いた各担当支店長の参加も頂いた。



①グループ討議



②発表風景

【研修会事業で使用するテキスト】

- ◇ITコーディネータ協会の経営者IT経営研修テキストを使用した。

〔研修会事業での成果〕

1. 目的・目標に対して実現した成果

- 1) 受講企業数：10社 摂津水都信用金庫の支援を得て、各支店より、経営革新に意欲ある企業を推薦頂き、当初計画通り参加企業を募集することができた。
- 2) 受講企業は、製造業、建設業、流通／販売／サービス業とバラエティーに富んだものとなった。
- 3) 受講企業10社すべての「経営戦略企画書」「IT経営企画書」が完成し、発表会を成功裏に終わらせることが出来た。
- 4) 意欲的な経営者が多く参加し、活発なグループ討議、発表、質疑応答が行われた。
- 5) 受講企業の大多数が、本研修が大変役に立ったと考えており、満足度が高かった。
- 6) 大多数の企業が、経営革新に直ちに取り組みたいと考えており、今後の展開が期待できる。
- 7) グループ討議を通じて、異業種間の交流ができたこと、さらに、他の経営者との討議により、経営者自身の経営に対する「気づき」が出来、誠に有意義であった。
- 8) ケース研修第1日目終了後の懇親会開催により、親密さが増し、コミュニケーションの円滑化が図れた。

2. 研修会事業で参加者の今後の活動に期待される成果

- 1) 受講企業の「経営課題への気づき」「実践的能力の体得」により、今後の各企業の経営革新のスピードアップが図れる。
- 2) 経営におけるIT化の必要性が認識され、IT経営の促進が図れる。
- 3) 受講企業のSWOT分析において、全従業員からの意見発表がどの企業においても行われ、IT経営実行について全員参加の機運が醸成された。
- 4) 現下の厳しい経済情勢下において、経営層の自覚が高まり、危機への対応の姿勢が強まった。

〔研修会事業の評価〕

1. 研修会事業の成功要因

- 1) 摂津水都信用金庫の絶大な支援により、計画通り各業種から多様な企業の参加が得られた。
- 2) ケース研修及び受講企業個別訪問による支援も相まって、各企業の「経営戦略企画書」、「IT経営企画書」ともレベルの高いものが完成した。
- 3) 受講企業の大多数が、経営革新に直ちに取り組みたい意向を持っており、今後の展開が期待できる。
- 4) 発表会では、各受講経営者の熱心な討議と、摂津水都信用金庫 赤尾常務理事、日本情報システム・ユーザー協会 宮崎顧問、大阪能率協会 丸山常任理事による、懇切な講評が行われ、IT経営実行に対する貴重な示唆が得られた。

2. 研修会事業での課題

- 1) 今回の研修は、受講企業にとって、IT経営を行うスタートポイントであり、今後の実行について、当協会としても各企業の支援を継続して行っていく計画である。
- 2) 本研修事業は、平成14年度より継続して行っており、受講企業の総数は、119社となった。うち、数社については個別支援を開始しており、今後、これら受講企業を中心に支援企業の拡大を図っていく。
- 3) 受講企業の中から成功モデル企業を創出できるよう、さらに支援を拡充していく。
- 4) 今後も、IT経営応援隊、金融機関等、公的機関とも連携し、中堅・中小企業を支援していく計画である。

3. 研修会事業に対する実績評価・感想

- 1) 受講企業全社（10社）とも、「経営戦略企画書」、「IT経営企画書」の策定と発表ができたことは、大きな成果といえる。
- 2) 受講企業の大多数が、大変役立ったと考えており経営革新に取り組む意欲を持っているため、IT経営の実践に向けて、一貫支援を継続して展開していく計画である。
- 3) 今回の受講企業も昨年に引き続き多様な企業となり、さらに、経営革新に積極的な企業が多く、活発な討議につながった。また、今回の研修は、異業種交流の場としても有効であった。
- 4) 来季も継続してIT経営応援隊に参画し、また、個別企業の支援を継続する。
- 5) 研修の中で、受講企業が互いに連携を提案しあう場面もあり、中小企業の相互連携につながる実践的な研修であるとの確信を得た。

謝辞

本事業実施にあたり、受講企業の推薦から、発表会での総括までの全てに亘り、絶大なご支援を賜りました 摂津水都信用金庫 赤尾常務理事様、小牧理事様、高岸業務副部長様、木谷人事部副室長様はじめ 会場運営等にご尽力いただいた摂津水都信用金庫の各支店長他の皆様方、東京より駆けつけていただき 懇切なるご講評を賜りました 日本情報システム・ユーザー協会の宮崎顧問様に厚く御礼申し上げます。この成果を糧に、さらに事業を継続してまいりたいと考えておりますので、今後とも、よろしくご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。